

「清水勇人市長と語る」タウンミーティング【北区】

〈開催概要〉

日 時：令和3年11月13日（土） 14：00～15：30

会 場：宮原コミュニティセンター 1階 多目的ホール

参 加 者：15名（傍聴者2名）

市出席者：市長、都市経営戦略部

事 務 局：市長公室広聴課

開催テーマ：将来を見据え、さいたま市のまちづくりや市役所移転について考えよう

参加者との意見交換

●参加者

〈発言1〉

市役所の移転についてですが、移転をすることはいいことだと思います。市役所が相当老朽化していますし、移転しなければならないというのはわかります。位置等に係る検討の際は交通の利便性を考えて場所を選んだと思うのですが、その利便性というのは職員の利便性のことと思ってよろしいのでしょうか。市民はあまり市役所に行くことがなく、区役所で全部済んでしまうので、区役所さえ近くにあればよく、市役所がどこにあっても全然関係ない状況なのです。ですから、その利便性ということ考えた場合には、要するに市役所の職員の利便性なのかなと説明資料を見たときに思いました。

移転先はもうさいたま新都心が選ばれてしまったのですが、移転後に浦和区役所のバスの便などが不便になるようでは困ります。そういったことも併せて、なぜ新都心なのかというのを教えていただければありがたいかなと思います。

〈発言2〉

私は市内に勤務しているのですが、先ほどの方がおっしゃったように、市役所は市民の方というよりは事業者の方が行くケースが多いと思います。そういった意味では、新都心の場所については、駅を挟んだ向こう側に合同庁舎や中央郵便局などがあり、市役所の機能が新都心に移転することで行政機能が一層集約されて、特に来庁者の多くを占める事業者にとっての利便性は向上するのかなと感じています。

また、目標使用年数60年という中で、55年で移転ということにつきましては、耐用年数が近づいてくるに当たってコストがどんどん増えていくのは当たり前の話なものですから、5年前ということで、ぼろぼろになる直前、もしかしたらもうぼろぼろになっているかもしれませんが、この段階で移るということは、経済効率化の観点から見ても違和感がないと感じています。

〈発言3〉

高校生として、市役所や区役所は行きづらい、入りづらいというイメージがあります。ですから、新庁舎整備、また現庁舎地の活用について、例えばホールや図書館等、別の設備を併設していただくことはとてもよいのではないかと考えています。

特に、子どものころ親と一緒に市役所に行ったときは、かなり待ち時間があったように感じました。そういったときに、図書館やホール等、別の設備があることで、少しでも市役所や区役所に行きづらいついた気持ちが緩和されるのではないかと考えています。

<発言4>

新庁舎の整備に関連をして何点かお話をさせていただきたいと思います。

旧庁舎の目標使用年数を60年としたということですが、新庁舎は、100年後を見据えた機能を導入するということが非常に大事なことではないかと思っています。

庁舎の使い方については、市の中心ですので独立性を持たせて、平時における運用というのは当然ですが、有事における運用をしっかりと頭に入れた庁舎にさせていただきたいと思っています。

細かいところを4つほど言いますと、1つは建物そのものの強度についてです。地震が起きた時に、庁舎の司令塔に被害が及んでしまつては話になりませんから、免震ということについてしっかり考えてもらいたいです。

2つ目ですが、必要とするユーティリティの独立性についてです。水にしても食料にしても寝る場所等にしても、少なくとも2週間程度は自力で動けるような体制をつくる必要があるのではないかと私は思っています。

3つ目は、国や関連機関等とも連携をしっかりと取れるような、デジタル化の話が出ていましたが、通信は二重性を持たせるということが基本ですので、その辺をどう考えていくのかということです。これは今後の検討課題ではないかと思っています。

4つ目ですが、行政機能と、市民の便宜性との融合ということです。保全の観点とはトレードオフになりますが、使いやすい、親しみやすいという点からは、民間としっかり協力していくことが大事なのではないかと思っています。

<発言5>

福岡からさいたまに引っ越して来ました。福岡市の市役所は10階くらいで成り立っているのですが、テーマ説明資料の新庁舎イメージ図を見ると20階程度とあったので、結構省くことのできる機能はあるのかなとは思っています。

また、福岡市ではスタートアップやボランティアの拠点というのを実施しています。市役所を移転する時には、例えば横浜市や千葉市といった関東の他市との差別化ということで、旗印みたいなものがあればさいたま市も変わるし、過ごしている人も何々といえはさいたまだよねみたいな感じになるのかなと思っています。

特に今後、関東で地震は避けられないと思っていますので、ボランティアであるとか、そういう災害拠点としての機能は、強化していくべきだろうと思います。また、市役所移転の際の民間活力という話がありましたが、その後運用するときも民間を活用しないと変わらないと思っています。

20階建ての庁舎というのは現時点での計画だと思うのですが、便利な場所なので、上のフロアに空きをつくって、企業を誘致したりするとよいと思います。便利な場所ということで、企業は入りやすいし、さいたま市の活性化につながるのかなと思いました。

<発言6>

新庁舎の整備と現庁舎の活用についてなのですが、中高生の立場からすると、市役所という場所はなじみがなくて、どういうことができる場所なのか、どういうものがある場所なのかというのは全然わかりません。なので、中高生が利用しやすい、例えば自習室だったり、さいたま市はバスケットやサッカーなどいろいろなスポーツが盛んな場所なので、運動ができる場所だったり、そういう中高生でもなじみやすい場所をつくっていただきたいです。市役所にはこういうものがあるよというのをもっといろいろな人に広報していただけたら、よりいろいろな人が利用できて、より活発でいろいろなことが行われるいい市役

所になると思います。

<発言7>

さいたま市の人口とか面積、規模を考えますと、新庁舎は機能を優先させた住民ファースト、市民ファーストの、ワンストップでサービスを受けられる庁舎の実現が理想かなと思います。

一方で、まだ理想を語り合うタイミングだと思いますので申し上げますと、市役所は今、なかなか身近に感じられません。市役所には申請や手続がないと行かないのですが、市役所があるところに日常としていくことが多くなれば、市役所や市政を身近なものと思ってもらえると思います。前例となるのが、北図書館とさいたま市北区役所が複合化されたプラザノースです。新庁舎も北区の事例を発展的に検討し、少なくとも庁舎前にオープンスペースやカフェなどを設け、憩いやにぎわいの場をつくるなどしていただけたらと思っています。

また、さいたま市は生き生きと誇り高く暮らせる文化芸術都市を目指しています。そういう意味では、プラザノースでコンサートや美術展など文化芸術に触れられるのでいいことなのですが、もっと、例えばアーティストに制作する部屋を貸して、その部屋を自由に見ることができたりとか、趣味のサークル用に部室や稽古場として一定期間部屋を貸すというようなことをすると、文化芸術都市創造計画の基本理念に沿うものかなと思っています。

庁舎には、文化施設まで併設しなくても、このような貸出しスペースがあれば、市役所がより日常に近くなるのではないかなと思いました。

<発言8>

私は中学生なのですが、市役所は本当になじみのない場所で、何をしているのかもわからないので、市役所は何をやっているのかを発信していくことが重要だと思います。

新庁舎を整備するに当たって、フリースペースなどをつくることでより幅広い年代の方も利用できるのも、そういうものを整備するのがよいと思います。

また、新庁舎の中に中高生の興味のあるものなどを設置することによって、中高生にとっても行きやすい場所になるのではないかなと思います。

<発言9>

さいたま市に住んで長くなるのですが、私も含めて、さいたまは住みやすい、住み続けたいという市民の声が多いと思っています。市外の方についても、さいたま市に住んでみたいという思いを持っている方も多いということで、非常にさいたま市のイメージはいいと思います。

ですから、新庁舎を新都心に移転するという計画を立てているということですが、新庁舎は、好イメージを維持できるような、是非シンボリックな庁舎にしていただければと思います。一番大事なことは安全なまちということです。長く住み続けるまちのシンボリックな形として、安全なまちであること、防災拠点としてしっかり取り組んでいるということを発信できたらいいかなと思っています。

現庁舎地の活用については、これから高齢化や人口減少が到来しますので、財政負担も考えますと、市民に潤いをもたらしたり、豊かな生活に結びつくような拠点になることはもちろんですが、そこをうまく民間と連携することによって、収益を得て、財政負担の軽減に結び付けられるような活用の仕方ができるとよいのではないかなと思っています。

具体的な例としては、文化芸術や教育、先進技術など、人が集まってくるような機能のあるまちづくりや、人を集客できるような活用の仕方を、市民も含めて一緒に考えていけたらいいと思っています。

<発言10>

私は、新しく市役所ができれば、市役所の前で、10区の特色ある発表ができる、郷土愛が広がるような場を設けていただけたらなと思っています。

さらに、各区民がいろいろな区に行ける交通システムをつくってほしいと思います。例えば、北区のこの場所からバスに乗ると南区のいろいろなところに行けますよというような交通システムをつくってほしいです。

最後に、北区でもやってほしいと思っているのですが、新しく市役所ができれば、朝市や夕市を市役所の中の一区域で開催して、さいたま市では面白いことやっているとな全国的にアピールしてほしいです。

◆市長

>>発言1

市役所の移転については、老朽化しているということから理解ができるということでしたが、交通の利便性が市民のためなのか、働く人のためなのかというお話もありました。

これについては、もちろん市民を意識しています。通常の市民サービスは区役所で行っていますが、それ以外にも事業者の方もいらっしゃいますし、それから市民の皆さんも来ていただけるような機能も併せ持ちながら市民の皆さんにも親しめる場所にしていきたいと考えているところです。

それから、移転後の浦和区役所の交通の問題などについてお話をいただきました。市全体としても、民間のバスなどの本数が一部の地域では少なくなっているというケースもあります。私たちも、高齢化の時代に移動手段をどう確保していくかはすごく重要なテーマだと思っています。

今、一部の地域でAIを活用したデマンド型の乗合交通や、自転車やスクーター、電気自動車を、時間単位で借りて移動していただくような実証実験をやっています。最終的にはできるだけ安い金額で移動しやすい環境を公共交通の中でしっかりつくっていくことが、非常に重要だと思っています。

これは、現庁舎地だけでなく新庁舎地もそうですし、市全体として将来のことについてしっかりと充実を図っていききたいと思ったり、取り組んでいききたいと思っています。

>>発言2

新庁舎が新都心ということは十分理解ができる、市役所に行くのは事業者の方々が非常に多いので、合同庁舎もあるし、そして市役所にも行けるということで利便性が向上するのではないかと御意見をいただきました。

また、現庁舎の建築後55年での移転ということについても、老朽化していくとどうしても修繕費が毎年非常にかかるという状況になってまいりますので、そういったことを考えると少し早めに移転するというということについても御理解をいただけるという御意見を頂戴しました。

さいたま市では公共施設マネジメント計画をつくっていて、できるだけ公共施設を長く使いたいということで、今いろいろな建物の老朽化の調査をさせていただいています。基本的には、公共施設の使用年数は60年が目安ですが、もし建物がいい状態であれば80年を意識しながら使っていこう、また予防保全をしながらやっていこうという方針の下に進めさせていただいています。そういった中で現庁舎について調査をしましたところ、鉄筋の腐食や雨漏りの問題があり、60年以上使うのは難しいだろうという結論が出ましたので、その中で55年ぐらいで移転をするのがコスト的にも一番安く済むだろうということになったところです。

>>発言3

高校生からすると市役所、区役所というのは入りづらいイメージだということで、ホー

ルや図書館を併設し、市民が集える機能を持たせることによって親しまれる場所になるのではないかと御提案をいただきました。

プラザノースのお話もありましたし、今、さいたま市はいろいろな施設の複合化を進めています。これは、コストを縮減するというでもありますし、それぞれの施設の機能を高める相乗効果も含めて考えておりました、新しくできた大宮区役所も大宮図書館を併設する形で作りましたが、今まで以上にたくさんの皆さんに来ていただくという状況が生まれています。

私たちも、親しまれる、そして市民の皆さんからも来ていただけるような場所にしていきたいと考えていますので、そういった視点も十分踏まえて考えていきたいと思えます。

>> 発言 4

100年後を見据えた機能を持たせる必要があるのではないかと、そして、新庁舎は市の中心であるので、それを見据えた機能をしっかり持ってほしいという御意見を頂戴しました。それから、災害のことなどを考えると、電力や水などを含めて独立性を保って、そういったときにもしっかりと機能する施設にしてほしいといった御意見を頂戴しました。また、建物の強度などについても、免震構造などを含めて、災害に強い構造にしてほしいという御指摘をいただいたところです。

さいたま新都心地区は、国の計画の中では広域防災拠点という位置づけもあります。首都直下地震が起こった際の首都機能のバックアップをしていく拠点ということになっておりまして、大きな地震があつて霞ヶ関が壊滅的な状況になったときには、その機能の一部を担っていく可能性が高いのがさいたま新都心地区になると思えます。私たちもそういったことを踏まえて、災害に強い場所にしていく必要がありますし、さいたま市民の安全はもちろんです、もう少し広域的な視点で、防災機能をしっかり持った拠点にしていくことが必要ではないかと考えているところです。御指摘のところも含めて、今後さらに検討を深めていきたいと思えます。

また、行政機能と市民の利便性の融合ということも御提案をいただきました。行政機能だけですと市民にあまり来ていただけない場所になってしまう可能性がありますので、そういう意味では市民の皆さんにも利便性が高く親しまれる場所となるように、十分に検討していきたいと思えます。

>> 発言 5

福岡市の事例などを挙げていただき、新庁舎はスタートアップ企業やボランティアの拠点になったらいいのではないかと、横浜や千葉との差別化を図っていくということも非常に重要ではないかと、また、防災の拠点にすることも必要だというお話をいただきました。また、民間の力をしっかり活用することで、便利な場所、親しまれる場所になっていくのではないかと御指摘をいただきました。

私たちも、市民の皆さんにとっても、市外の方々にとってもさいたま市がどういう市であるのかを発信できるようにしていきたいと思っています。

先ほど、住みやすい、住み続けたい市だと言っていたいただきましたが、実際に、市民意識調査の結果を見ますと、住みやすいと言っている市民の割合は85%以上となっていて、昨年は86.3%まで上がりました。また、住み続けたい人も85%以上が続いているという状況です。

しかし、もう一方で対外的な発信が弱いところもあります。さいたま市は日本経済新聞社の全国市区・SDGs先進度調査で、全国第1位であるとか、政令指定都市の中の幸福度ランキングで第1位だとか、全国に誇れることがたくさんあります。そういったことも含めて、さいたま市が目指しているものや、さいたま市がどんなまちなのかということをご皆さんに知っていただけるような機能も併せて持っていきたいなと思っています。

>> 発言 6

中学生からすると、なじみのない場所で、ただ市役所を新しく建てても利用しない可能性が高いので、スポーツであったり図書館であったり市民の皆さんが集まりやすい、中高生も来やすい機能を持った場所にしてほしいという御意見をいただきました。

私たちも、市民の皆さんに親しまれるような場所にしていきたいと思っています。そういったことも踏まえた機能をしっかりと考えていきたいと思っています。

>> 発言 7

プラザノースのお話なども踏まえていろいろ提案をいただきました。基本は市民ファーストの機能を持ってほしいということで、ワンストップでの市民サービスの実現や、庁舎内にオープンスペースをつくって、イベントなど市民との交流ができる場所をつくってほしいという御意見をいただきました。

プラザノースは、10区の区役所の中でも特筆すべき場所で、商業施設が周辺にあり、そして区役所があり、そしてその中にコミュニティセンターのような機能があったり図書館もあったりということで、大変すばらしい機能を持った施設だと思っています。さらにここは、PFIという民間活力を使った事業として実施をしています。新庁舎は、新都心の駅から近い非常に好立地な場所にありますので、そういった本庁舎プラス民間の施設、例えばオフィス機能みたいなものであったり、ホテルみたいな機能であったり、商業施設のような機能であったり、福祉的な機能であったり、そういったものなどを複合させることで、財政負担を軽減させながら、この立地を生かした取組をしていければと思っています。

>> 発言 8

中高生から見ると市役所はなじみのない場所なので、フリースペースをつくっていろいろな世代が使える、集まってくる場所にしてほしい、また、中高生の興味のある場所にしてほしいといった御意見をいただきました。

中高生の皆さんからすると市役所はあまり行ったことがなくて、堅かったり、敷居が高いというイメージなのかもしれません。そんなことを含めて、私たちも考えていきたいと思っています。

>> 発言 9

さいたま市は住みやすく住み続けたい、また住んでみたいというプラスのイメージがあるので、新庁舎はそうしたシンボリックな場所にしてほしいという御意見をいただきました。特に、安全安心面について発信ができればいいのではないかという御提案もいただきました。

また、現庁舎については、市民の潤いと豊かさだけでなく、場合によって民間ともいろいろな形で連携をして、収益を上げて財政負担を減らすということを視野に入れながら、事業を進めていったらどうだろうかという御提案もいただいたところです。

私たちも、これからもいろいろなまちづくりを進めていく必要があると思っています。その中で、財政には限りがありますが、よりいいものにしていく必要もあります。そういった視点から、できるだけ民間の皆さんと連携をして、まちづくりを進めていきたいと思っていますし、現庁舎地の跡地や新庁舎についても連携してやっていきたいと思っています。

>> 発言 10

10区の特徴あるものについての発表の場がほしいという御意見を頂戴しました。それから、市内の交通アクセスをしっかりと整備してほしいという御意見も頂戴しました。

御指摘のとおり10区それぞれ特徴があって、そこがさいたま市の魅力でもあると思います。旧4市という言い方をすることがありますが、今は10区それぞれに魅力があり、それ

それぞれの地域の特性を生かしたまちづくりや区政、市政運営を行っています。私たちもそれぞれの地域の特色ある文化をつくっていき、そういった10区の特徴あるものが発表できる場もつくっていきたいと思っています。また交通アクセスについても、新都心地区に庁舎を移転をすると、さいたま市の真ん中に近い場所になるということもあります。アクセスもしやすくなると思いますし、また新庁舎ができればそこに向かうアクセスの改善に取り組んでいかなければならないと思っています。

さいたま市には133万人という市民がいますので、皆さんがこの市内を回りやすい環境や、公共交通の在り方については、重要なテーマだと思っています。先ほどもお話ししましたが、AIを使ったデマンド型の交通体系であったり、最近では自動運転のバスの実証実験をやらせていただいたり、様々な取組をさいたま市もやっています。そういった公共交通をつなぎ合わせながら、あまり高くない金額で移動が可能になるような取組も検討しているところですが、こういったものをさらに進めていきたいと思っています。

また、朝市など、地場野菜が食べられたり買えたりといった場所もつくってほしいという御意見もいただきました。

今、一部の区役所ではそういった取組も実施しています。多くの市民の皆さんに御利用いただいております。毎月19日を地産地消の日と制定しまして、地域で採れた野菜を皆さんにできるだけ食べてもらおう、活用してもらおうということで取り組んでいますので、そういったこともできる限りしていきたいと思っています。

●参加者

<発言11>

ほかの人の発言にもありましたが、高校生からすると市役所は厳粛なイメージで入りづらかったりすることも多いと思います。

私が通っている高校の生徒はいろいろなところから来ているのですが、そういう人たちから見ても地域それぞれのイメージというのがあって、大宮でいったら買物をする場所、新都心は遊びに行く場所、浦和は市役所とか県庁とかもあって学校もたくさんあって、地方公共団体とかの施設がいろいろある場所といったイメージがあります。新都心にさいたま市役所をつくるとなると、高校生や中学生からすると、市のいろいろな施設や図書館などを併設することによって、イメージは結構がらっと変わったりするので、とても面白いと思います。

そうすると、今現在、さいたま市役所があるところがどうしたらいいのかなと考えたときに、浦和には学校がいろいろとあるので、美術館や教育活動に関係する施設をつくり、学校とコミュニケーションを取っていくと、地域が活性化して、学問や教育面でもとても地域が盛り上がっていくと思いました。現庁舎地の利活用として美術館などがあると、学生としては浦和がイメージしやすいまちになっていくのかなと思います。

<発言12>

お聞きしたいことが1つありまして、新庁舎は20階ということなのですが、地下の利用には何か制限があるのでしょうか。利用についてももうお考えの中に入っているのでしょうか。

地下というのは今いろいろな問題になってはいるのですが、基本的に建物の見えない部分として非常に使いやすい部分がたくさんあります。例えば、備蓄できるようなスペースをつくれば、見えないところで水などの備蓄ができる利点があります。なので、私は地下の利用というのは、非常に有効活用できるのではないかと考えています。

また、エネルギーについてのお話がありましたが、環境問題への対策として、独立性という観点からも、いわゆるコージェネレーションのようなシステムを導入することで、必要に応じて供給できるという形も取れるかと思っていますので、その辺の御検討もお願いできたらなと思っています。

< 発言 13 >

さいたま市としては、この新しい市役所に一番重視する機能は何なのか、目玉としたい機能は何なのかということをお伺いしたいと思っております。

私としては、今後のことを考えますとデジタル化と防災機能の2つだと思っております。ほかの市の模範になるような機能を是非さいたま市役所には持ってほしいです。

< 発言 14 >

現庁舎地の利活用なのですが、近くに埼玉県危機管理防災センターがあります。ですから現庁舎の跡地は、広い土地もあってヘリコプターも飛ばせるような、県とすぐ連携できる防災基地として活用してほしいです。

今あるさいたま市防災センターは、自治医大の近くにありますが、地盤が弱いと思いますし、首都直下地震が来たら危ないと思うのです。だから、現庁舎地を県と連携できるような防災基地にしていただければと思っておりました。

< 発言 15 >

新庁舎について、2点意見があります。

まず1点目ですが、さいたま市では、CS90+（プラス）運動をされていますが、市民満足度の向上に当たっては、市で働く人の職場環境をよくしたり、満足度を上げる取組が重要になると思います。その点で、新庁舎ではデジタル対応はもちろん、働く人のモチベーションや生産性があがるような空間を検討していただきたいと思っております。

もう1点は、先ほども市役所にはなじみがないという意見がありましたが、今も実施しているのかもしれませんが、例えば小学校では、市庁舎見学を行うのはいかがでしょうか。そのために、庁舎内に見学通路を確保したり、見学が終わった後に職員の方とのディスカッションができるような場所をつくるなど、新庁舎建設のときには事前に計画してはどうかと思っております。

子どもの新鮮なアイデアは刺激になると思いますし、小さいうちからそういうことを経験されることで、子どもも市役所やまちづくりを身近に感じてもらえると思います。市長の椅子に座る経験をしたら、大きくなって市長になって市のために働こうとか、危機管理センターを見学できたら、安全なまちづくりに興味を持って育ててくれるかもしれません。そういう経験をした子どもたちが大きくなって市の職員になって、市の発展、飛躍に貢献してもらおうというような循環になっていくのではないかなと思っておりました。

< 発言 16 >

2点ほど意見があります。

東京都庁には、一部観光できる場所があります。市役所は中学生にはなじみがないということで、せっかく新しくつくるのだから、そういう観光もできるような場所ができたら、親しみができたり、いろいろな発信もできるのかなと思っております。

もう一つは、コロナ禍の前だと会議場が足りないという問題があったのですが、コロナで情勢が変わってきていると思います。新庁舎には市議会も併設されると思うのですが、そこで一般的な会議もできるように貸し出して、収益を上げるということができたらいいなと思っております。

< 発言 17 >

10年後に新しく市役所ができるという話はそれでいいと思っておりますが、一番大事なことは人間性だと思っております。そこに住む住民もそうですし、また市役所に勤務する職員も、挨拶もできない、顔があっても全然知らないふりをするような人間づくりをしないでほしいなと思っております。

人と会ったときにはおはようございます、こんにちは、と挨拶をするように学校では指導しますが、学校を離れてしまうとなかなか挨拶をしなくなります。新しいまちづくりというのは、まず一人ひとりの人間性を高めていくことが大切になります。役所も住民も、そういう当たり前のことをできるようにして、新しいさいたま市づくりに取り組んでほしいです。

<発言18>

現庁舎の利活用についてですが、住みやすい、住み続けたいまちであるということから発展させていくためには、若年層のそういった気持ちをしっかり定着させる必要があると考えています。郷土愛については、自分たちが住んでいる地域の歴史を知るところからまず入ると思ひまして、テーマ説明資料に書いてある歴史と行政の資料館はそのとおりだと思います。特に小学生とか小さいお子さんたちが、自分たちが住んでいるさいたま市というものはどうして成り立ってきて、どういう歴史を歩んできているのかということが、わかりやすく学べるような場所があると、その子どもたちが大きくなったときに、自分たちの市を誇れるようになっていくのではないかと感じています。

あと、新庁舎の方については、予算の関係もあると思うのですが、バスターミナルがあったり、民間との複合施設も検討しているということであると、可能であれば駅から、濡れないで行けると利便性はより高くなると思います。

<発言19>

浦和の区役所の跡地のことを随分気にされているようですが、大宮も区役所が移転してしまって空洞化も予想されますし、大宮駅前も、特に東口は寂れてしまっている状態です。まちづくりについては、随分浦和の方の発展を考えているようですが、合併以来の都市開発予算は浦和に対して大宮は1,000億円近くも少ないです。それに、副都心の整備を浦和美園と武蔵浦和と岩槻と日進・宮原地区とやっていくとおっしゃっていますが、武蔵浦和と浦和美園で約860億円、日進・宮原地区は僅かに約32億円で27分の1です。

それで、公共施設についても区役所も旧浦和市域は全て立派です。市民活動サポートセンター、武蔵浦和、浦和、美園のコミュニティセンター、子ども家庭総合センター、中央図書館、桜図書館、武蔵浦和図書館、市立病院の建て替えや記念総合体育館、桜環境センターとほとんど浦和にはばかり公共施設が建っています。

私は、もう浦和の方にはお金は使わないで、もう少し大宮の方に、大宮の市民が使えるような施設をつくるべきだと思います。大宮の税収は浦和よりはるかに多いです。税収が多い大宮にもっともっと公共施設をつくるべきだと思います。

◆市長

>>発言11

市役所は高校生が入りづらい感じがあるので、高校生も入りやすい場所にしてほしいという御意見を頂戴しました。また、現庁舎地の活用については教育と連携したものにしていくことがよいのではないかとということで、例えば美術館という御提案をいただきました。

新都心と浦和のそれぞれの地域の特徴がより生かされる形で、まちづくりができれば望ましいと思っています。

>>発言12

地下の活用はどうだろうかということで御意見をいただきました。

私たちも、地下の利用についても駐車場をはじめいろいろ検討していきたいと思っています。備蓄のお話や、エネルギーのコージェネレーションのお話なども出ましたが、エネルギーをしっかりと自立させるように対応していくということは、防災上も非常に重要な視点だと思っています。

>>発言13

一番重視していく機能は、デジタル化と防災機能ではないか、他の都市の模範になるような新庁舎にしてほしいという御意見をいただきました。

新都心地区については、先ほども説明したように広域防災拠点という位置づけをいただいているところです。市民の安心安全をしっかりと守っていくための重要な役割や、区役所だけでは十分行き届かないところもありますので、それをしっかりとサポートしていける司令塔のような役割も含めて対応していくべきところだと思っています。

また、これからデジタル化は、私たちが想像する以上に急激に進んでいくのではないかと思います。現在デジタル化については、令和7年度までに市のほとんどの手続きを電子化しようという取組をスタートさせました。

ただ、もう一方でデジタル化に十分対応できない市民の皆さんもいらっしゃいますので、そういった皆さんへの対応なども踏まえながら、さいたま市全体がデジタル化に対応できるように取り組んでいくという方針の下に、進めさせていただいています。

今、5Gという話を聞きますが、もう6Gの話も出ていますし、もっと先の7Gといった世界が来るのかもしれませんが。デジタル化は、これから生産性を高めた仕事をしていく上でも必要不可欠であり、市民の利便性を考える上でも非常に重要なことだと思っていますので、十分対応していけるようにしていきたいと思っています。

また、施設に求められることはどんどん新しいものに代わってくると思っていますので、そういったことも踏まえて、フレキシビリティを持った整備が必要かなと思っています。

>>発言14

現庁舎地の利活用については、防災センターのような防災機能の施設が必要だとの御提案をいただきました。県の防災センターと連携をしながら、防災の拠点にしてはどうかという御提案でした。

>>発言15

新庁舎について、2点御意見をいただきました。さいたま市では、市民意識調査で住みやすいと言っただけの市民の割合を90%以上にしようという運動であるCS90運動を行ってきました。当初は2020年までに90%以上にしようということで取り組みましたが、2020年の段階で86.3%となり、残念ながら90%を超えることができませんでした。ですが、市民意識調査がスタートした平成19年度で74.0%だったのが、12.3%増えてきたということになります。住みやすいというのは、行政サービスがいいということだけではなく、様々な環境によるところが大きいと思っています。86%を超えるような状況になったのも、市民の皆さんや事業者の皆さんの力によるところが大変大きいと私たちも思っています。

私たち行政だけではなくて、市民の皆さんや事業者の皆さんみんなで協力をして、住みやすいまちにしていこう、90%以上にしようというのがCS90運動でしたが、それをさらにもっといいものにしようということで、新たにCS90+（プラス）運動に取り組んでいるところです。

そういったことを実現するためには、職場環境のよさをしっかりと実現することが重要だという御指摘をいただきました。それは、一つはデジタル化への対応であったり、働きやすい空間をつくっていくことが、行政の生産性を上げることにつながっていくという御指摘でした。そういったことも考えながら、効率的な行政運営ができるようにしていきたいと思っています。

また、小学校などで市庁舎見学などを実施したらよいのではないかと御提案もいただきました。市のことについてもっと若い世代の皆さんに知っていただく、御理解いただくという取組を充実させることはすごく重要なことだと思っています。新庁舎の整備とともに、

そういったことも十分に考えながら取り組んでいきたいと思ひます。

>> 発言 16

新庁舎を観光の場にしていくことが重要ではないかという御提案でした。市民の皆さんにとって身近な場所、親しみのある場所にしていくためにはそういった機能を持った方がいいのではないかと、都庁の例なども挙げていただきましたが、そういった市民の皆さんも来ていただけるような、そんな場にしてはどうかという御提案をいただきました。

また、会議室を汎用性のあるものにして貸し出して、そこで収益を上げるということも一つの手ではないかといった御提案もいただきました。

可変性のある取組をしていくことが必要なと私たちも思ひますので、柔軟に対応できるようにしていきたいと思ひます。

>> 発言 17

一番大事なものは人間性だというお話でした。人とのコミュニティづくり、絆づくりということがすごく重要ではないかという御意見であると認識しています。そういう意味では、こういった市役所などでもコミュニティをしっかりと作り上げていき、コミュニティづくりのきっかけになるような場にしていくということがすごく重要だと思ひます。その基本が挨拶ということなのだろうと思ひます。

地域住民の皆さんには、例えば朝の子どもたちの通学の時間などに交差点に立っていただいて、子どもたちの安全を確保していただくというようなことをしていただいています。また、チャレンジスクールなどで皆さんの様々な力をお借りして、子どもたちにいろいろなことを教えていただいています。

さいたま市はそういった絆がまだ十分残っている場所だと思ひています。ただ、これからそれをどうやって維持していくのか、コミュニティー一つのつながりや絆をいかに大切にしながら、いかにまちづくりを進めていくかということが重要だと思ひます。

これから少子高齢化が進んでいきますので、財政状況はこの自治体も大変厳しくなってくると思ひます。そのときに、行政がやらなくてはならないことは行政がやりますが、市民の皆さんや事業者の皆さんと協力し合いながらやっていかなければならないこともたくさん出てくるのではないかと思ひます。そのためにコミュニティや人とのつながりはすごく大切なことだと思ひますので、私たちもそういったことを踏まえながら、単にハードを整備するというだけでなく、そういったことをしっかりと醸成できるような場にもしていきたいと思ひます。

>> 発言 18

若い世代の皆さんから郷土愛を持っていただけるような場所にしてはどうかという御提案をいただきました。

また、駅からのアクセスについて、できれば雨に濡れない環境があったらいいのではないかと御指摘でした。

駅と庁舎を結ぶデッキの必要性についても検討していかなければならないと思ひていますし、交通の問題や駅からのアクセスの問題も含めて検討していきたいと考えています。

>> 発言 19

もう既に、浦和の方のまちづくりにはかなり予算を使っているのですが、これから大宮周辺の公共施設やまちづくりにもっと予算を活用してほしいという御意見でした。

今回のテーマではありませんが、さいたま市としては大宮GCS（グランドセントラルステーション）化構想というのを進めています。大宮西口、東口の大きなまちづくりがこれから動き出してくると思ひます。その第1弾が大宮区役所の移転でもありました。それから大宮駅東口大門町2丁目中地区の再開発事業についても、市民会館おおみやが駅の方

に移転し、来年の4月からいよいよスタートします。あと氷川緑道西通線というものも整備されました。これから、大宮GCS化構想によって駅の機能の強化と、駅周辺の交通アクセスをよりよいものにしていくことを目指していますが、駅周辺のまちづくりという面では、特に東口については相当遅れているという認識を私たちも持っています。

そこで、既に、大宮GCSプラン2020というのをつくらせていただきました。3年以内に都市計画決定まで持っていきたいと思っています。まちづくりについては、地権者との合意形成などがありますので、すぐに工事をしてつくるとはなかなかいきませんが、大宮駅周辺のまちづくりもさいたま市にとっては大変重要だと思っています。これは、大宮の皆さんだけではなくてさいたま市全体の市民の皆さんにとっても重要なまちづくりだと思っています。

また西口についても、市営桜木駐車場用地活用のまちづくりがこれから始まってきます。駅周辺については、民間の再開発事業もスタートし、これから様々な事業がスタートしてまいりますので、もう少しお待ちいただきたいと思っています。

一つ一つの施設について、浦和のこういうものに対して大宮にはこういうものもありますよという御説明をすることもできます。いずれにしても今、大宮のまちづくりは進んできています。この大宮駅周辺のまちづくり、現庁舎地の利活用のことも含めた浦和駅周辺のまちづくり、それから新都心に本庁舎を持っていくということも含めて、これから私たちが持続可能なさいたま市をつくっていく上で大変重要なプロジェクトだと思っています。これからの10年で人口減少が始まると言われていますが、それ以降も持続可能な発展を続けていくために重要なプロジェクトだと認識しています。もちろん短期間で完了するものではありませんが、着実に前に進めていますので、どうぞもう少しお待ちいただきながら見守っていただければと思います。

今日は、参加いただいた皆さんから大変様々な御視点から御提案や御意見を頂戴することができました。特に今日は、大変若い世代の皆さんにも来ていただき、有意義な機会を持つことができました。

まだ、今日のこの機会だけでは十分に意見が言えなかったという方もいらっしゃると思います。先ほども言いましたように、今、パブリック・コメントも並行してやっていますので、今日もし言えなかった部分、言い足りなかった部分がありましたら、是非そちらの方にも御意見をお寄せいただければありがたいと思っています。

また、新庁舎や跡地利用の関係についても、今後順次計画の熟度が段階的に上がってきますので、その中で皆さんの御意見を引き続きお伺いをしていきたいと思っていますし、市民の皆様にとって親しみ愛される新庁舎にしていくべきだと思っています。

さいたま市は今年、誕生して20周年を迎えました。二十歳になった、成人を迎えたさいたま市がこれからどういう大人になって、市民の皆さんへどう貢献していくのか、首都圏や日本全体の中でどういう役割を担う都市になっていくのか、それをこれから私たちは市民の皆さんとともに作り上げていかなくてはならないと思っています。

今、新しい総合振興計画に基づいて、市政を進めています。まだ様々な課題がありますが、そういったことを乗り越えながら、より皆さんにとって住みやすいまち、住み続けたいまち、そして住みたいと言われるまちにしていくために、全力で取り組んでいきたいと思っていますので、引き続き皆さんから様々な御意見、御提案などをお寄せいただければありがたいと思います。

今日は、土曜日の午後ということで、本来でしたらゆっくりお休みをいただく、そんな時間ではないかと思いますが、わざわざここに足を運んでいただいてタウンミーティングに御参加をいただいたこと、私からもまた御礼と感謝を申し上げたいと思います。また引き続きどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

■ 補足説明

「幸福度ランキング」について

ランキングの出典と時点については、以下のとおりです。

「全47都道府県幸福度ランキング2020年版」（東洋経済新報社）
（市長公室 シティセールス推進課）